

# 小学校英語活動の経験と 中学生の英語学習に対する意識との関係

酒井 英樹(信州大学)

福本優美子(Benesse 教育研究開発センター)

「公立小学校の英語活動の経験が中学校英語学習にどのような影響を及ぼすかを調べることを通して、小中の英語教育の円滑な接続への示唆を得ること」

「第1回中学校英語に関する基本調査[生徒調査]」  
(Benesse 教育研究開発センター、2009年7月速報発表) で得られたデータを、再分析した結果を報告する。

1. 公立小学校における英語活動の経験者と、公立小学校でも学校外でも英語学習の経験のない者との比較
  - ← 公立小学校における英語活動の経験の有無に焦点をあてるため、学校の授業以外での英語学習をしていた者は分析から除いた。
  - ← 「外国語活動」の必修化に伴い、後者のような未経験者はこれから原則的に存在しなくなる。
2. 中学校2年時末の調査
  - ← 一時点での調査。経時的・長期的な調査ではない。
  - ← 中学に入学し、2年近く経過しているため、一時的な効果をみているのではない。

## 生徒調査

- ・対象 中学2年生 2,967名(全国の公立中学校33校)
- ・時期 2009年1～2月
- ・方法 学校通しによる質問紙調査
- ・調査内容 小学校以前の英語学習、中学校での英語学習の様子、家庭学習、外国や英語との関わり、学習動機など。

一部(3校)対象校は、GTECも同時実施。

## 教員調査

- ・対象 全国の公立中学校英語教員 3,643名
- ・時期 2008年7～8月
- ・方法 郵送法による質問紙調査
- ・調査内容 指導実態、指導に関する教員の認識、小学校英語との関わりなど。

国私立中学の教員調査も同時実施。



「生徒調査」と「教員調査」の2つの調査から、学ぶ側と教える側の両面から中学校英語について捉える。

- ・吉田 研作（上智大学）
- ・根岸 雅史（東京外国語大学）
- ・重松 靖（国分寺市立第三中学校）
- ・酒井 英樹（信州大学）
- ・工藤 洋路（東京外国語大学）
- ・鈴木 利彦（早稲田大学）
  
- ・Benesse教育研究開発センター  
（木村治生、沓澤糸、佐藤暢子、初海真理子、福本優美子）

## ①中学校以前の学習

小学校での英語活動(学年、内容、頻度など)  
中学校入学前の英語学習について、など

## ②中学校における英語学習

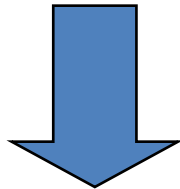
英語の好き嫌い、苦手意識、授業・宿題の取り組み方、英語の授業の理解度、つまずきなど

## ③学校外での英語学習

学校外での英語学習の有無、内容、  
自宅での英語学習時間・内容など

## ④英語や外国に対する意識

英語の学習動機、異文化への関心、  
英語に触れる機会、英語についての将来の意識、など



中学生の英語学習に関する実態・意識

## ●小学校英語の経験の有無

Q：小学生の時、学校で英語の授業や活動はありましたか。

9割以上の生徒が小学校英語を経験

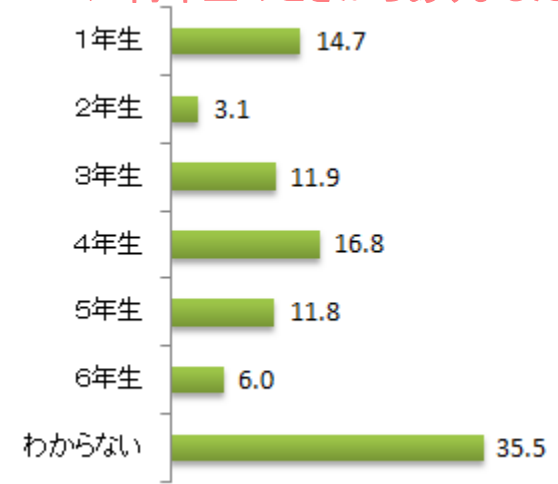
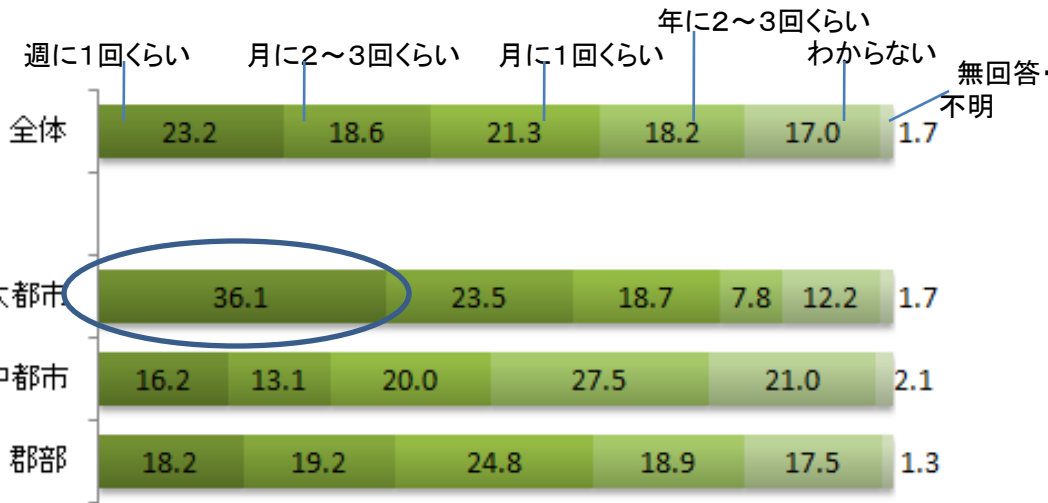


## ●小学校英語の頻度

Q：小学校での英語の授業や活動はどれくらいありましたか。

## ●小学校英語の開始学年

Q：何年生のときからありましたか。



\* 小学校英語の経験の有無について「あった」と回答した2,713名のみを対象。

\* 小学校英語の経験の有無について「あった」と回答した2,713名のみを対象。

\* 「無回答・不明」は省略。

・本調査の回答者は小5、6年生だったのは2005年、2006年度。  
 ・頻度などはまだバラつきが多い。

# 中学入学前の学校外の英語学習経験

## ● 中学入学前の学校外での英語学習経験の有無

Q : 中学校に入学する前(小学生の時やそれ以前)に、学校の授業以外で英語や英会話の勉強をしていましたか。



### 中学入学前の英語学習経験

(n=2,967)

経験なし群 (n=174)  
27校

学校外のみ,  
2.1

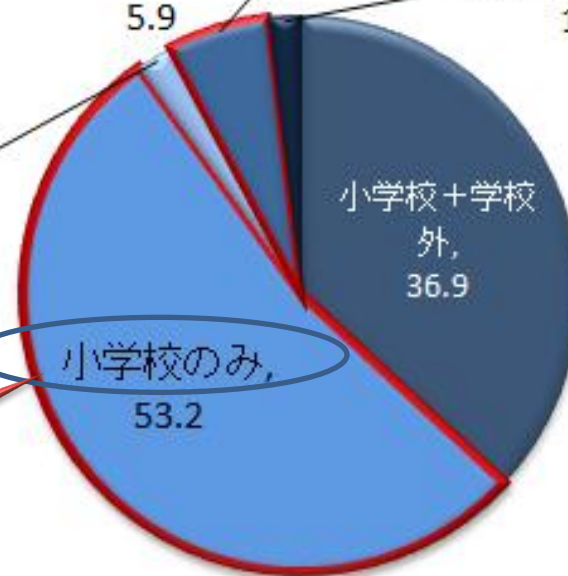
どちらもなし  
5.9

無回答・不明,  
1.9

小学校+学校  
外,  
36.9

小学校のみ,  
53.2

経験あり群 (n=1,579)  
33校





## 小学校における英語活動の経験は

- ・情意面に肯定的な影響を及ぼしている。



授業の理解度、英語の学習動機、好きな活動

小学校における英語活動の経験は

・学習に直接関わることには顕著な影響を及ぼしていない。



英語の得意・不得意、英語の成績、つまずきの要因

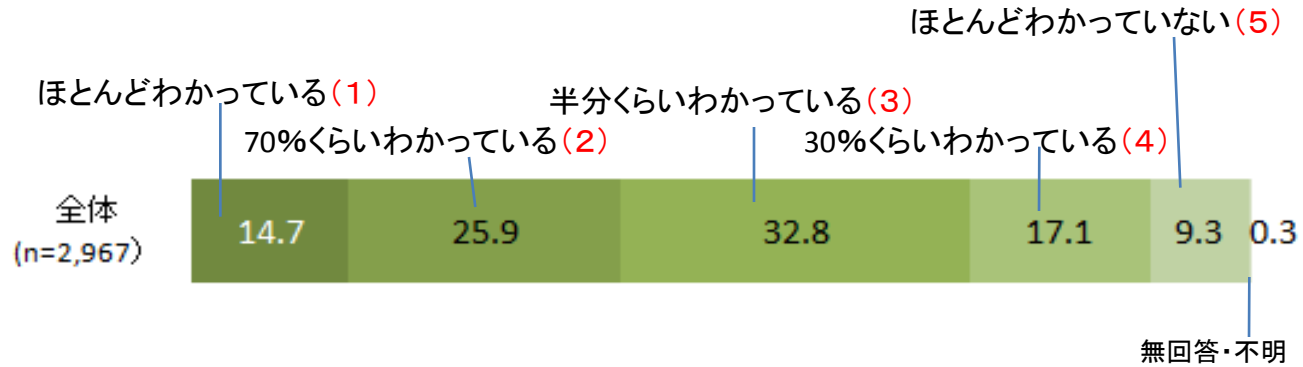
# 調查結果 (抜粋)

---

- 順位尺度を間隔尺度としてみなして、2群（経験あり群・経験なし群）の平均に差があるかどうかを検討するために、 $t$  検定を実施した。
  - 2群の間で、回答の分布に違いがみられるか、という検定ではない。
  - 未記入者は、検定ごとに除いた。
- 30回の  $t$  検定。第一種の過誤を避けるために、ボンフェローニ法による有意水準の調整を行った。
  - $\alpha = .00167$  ( $5\% \div 30 = 0.167\%$ )
  - 一方で、第二種の過誤の危険性は否定できない。
  - したがって、有意な差が見られなかったときに、同等である、という解釈にはならないので、注意が必要である。

# (1) 英語の授業の理解度

Q : 学校の英語の授業をどれくらい理解していますか。



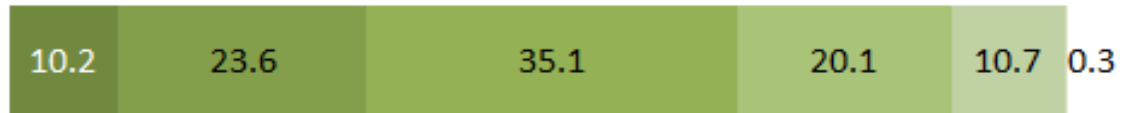
【平均】 【標準偏差】

経験あり群

(n=1,574)

2.975

1.130



▽

経験なし群

(n=174)

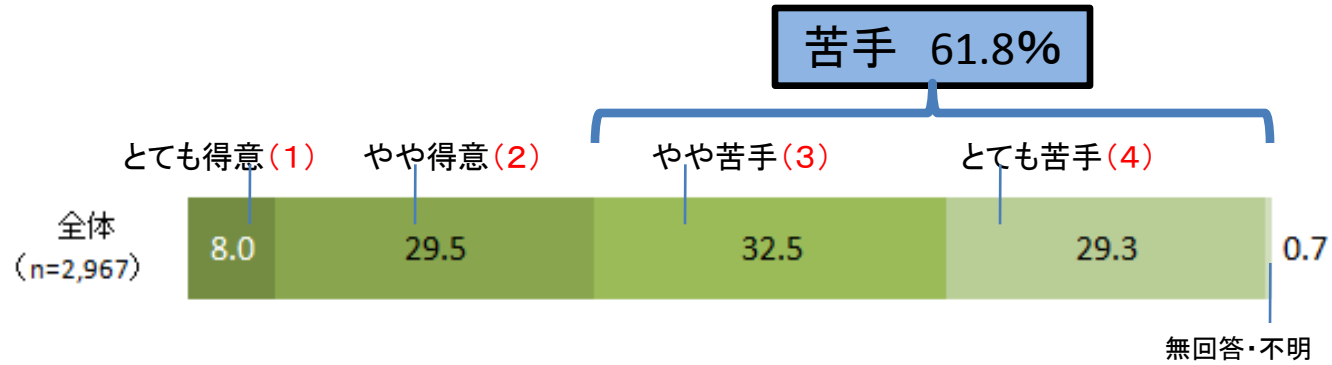
3.362

1.168



## (2) 英語の得意・苦手

Q: 英語が得意ですか、苦手ですか。



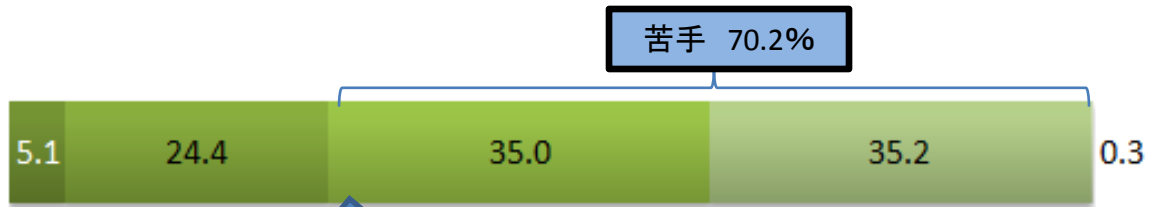
【平均】 【標準偏差】

経験あり群

(n=1,575)

3.006

0.896



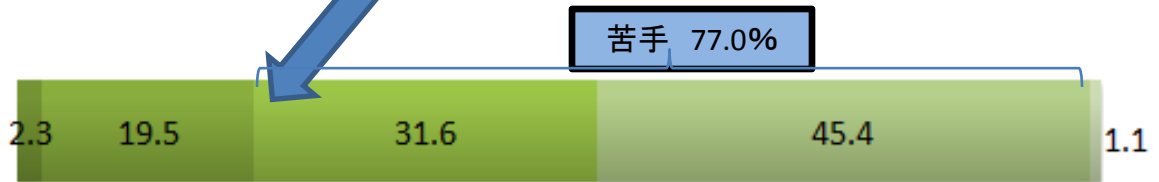
||

経験なし群

(n=172)

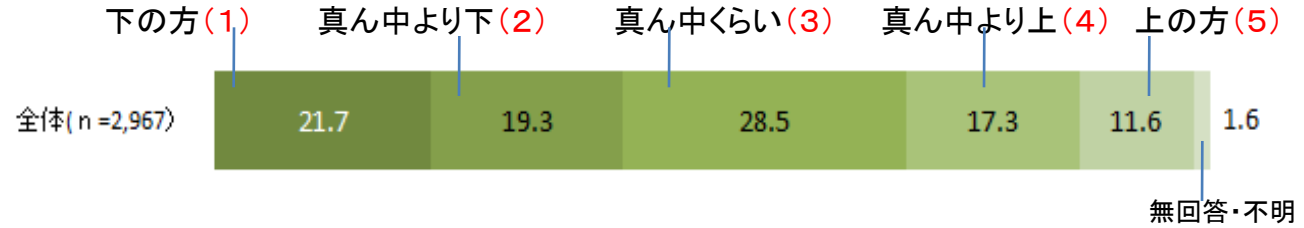
3.215

0.841



### (3)現在の英語の成績

Q : 現在の英語の成績は、クラスの中でどれくらいですか。



【平均】 【標準偏差】

**経験あり群**

(n=1,560)

2.542

1.243



.||

**経験なし群**

(n=170)

2.329

1.230



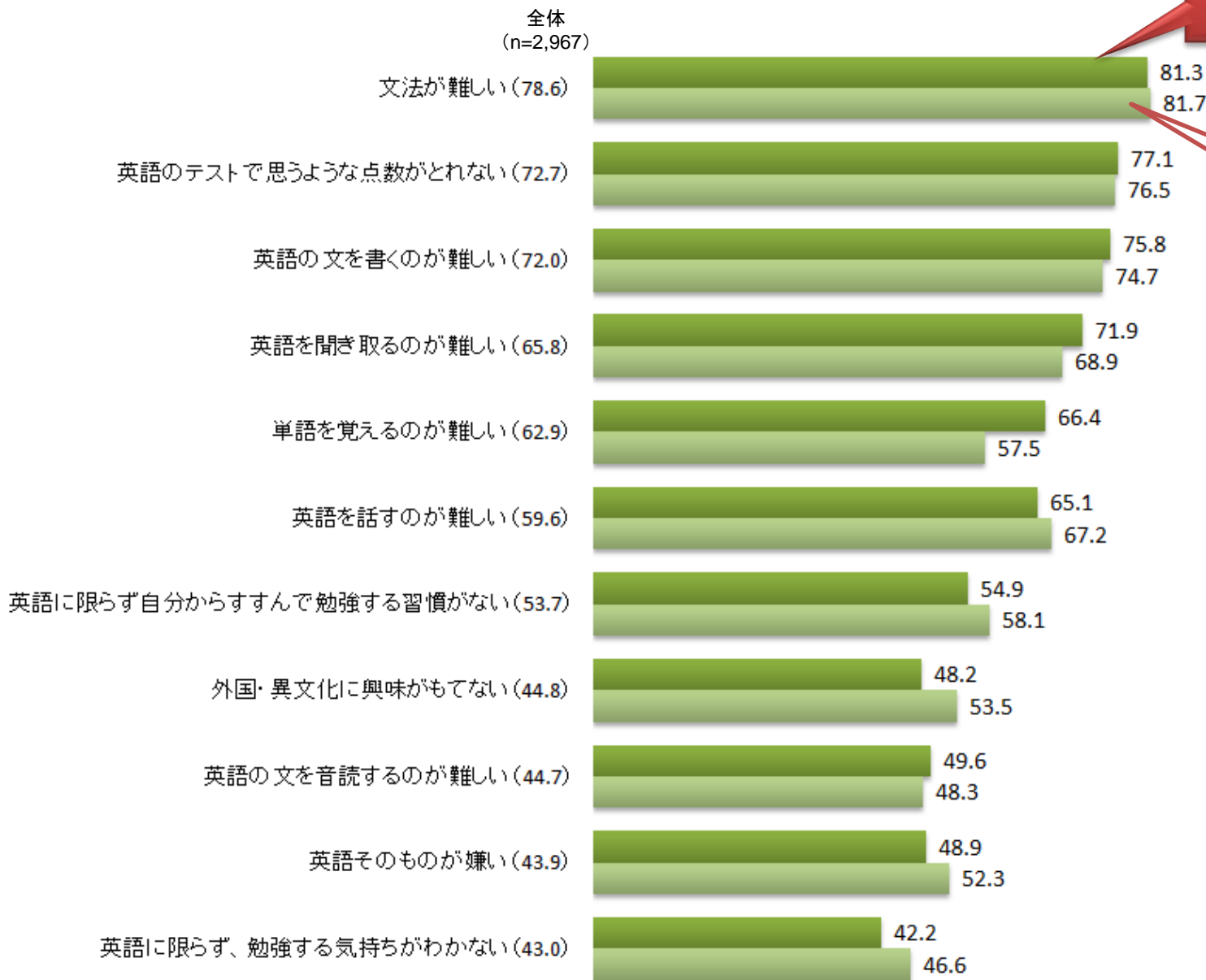
$t(1,728) = 2.123, p = .033860$

# (4) 英語のつまずき

Q : 英語の学習に関わることについて、次のようなことはどれくらいあてはまりますか。

経験あり群  
(n=1,579)

経験なし群  
(n=174)



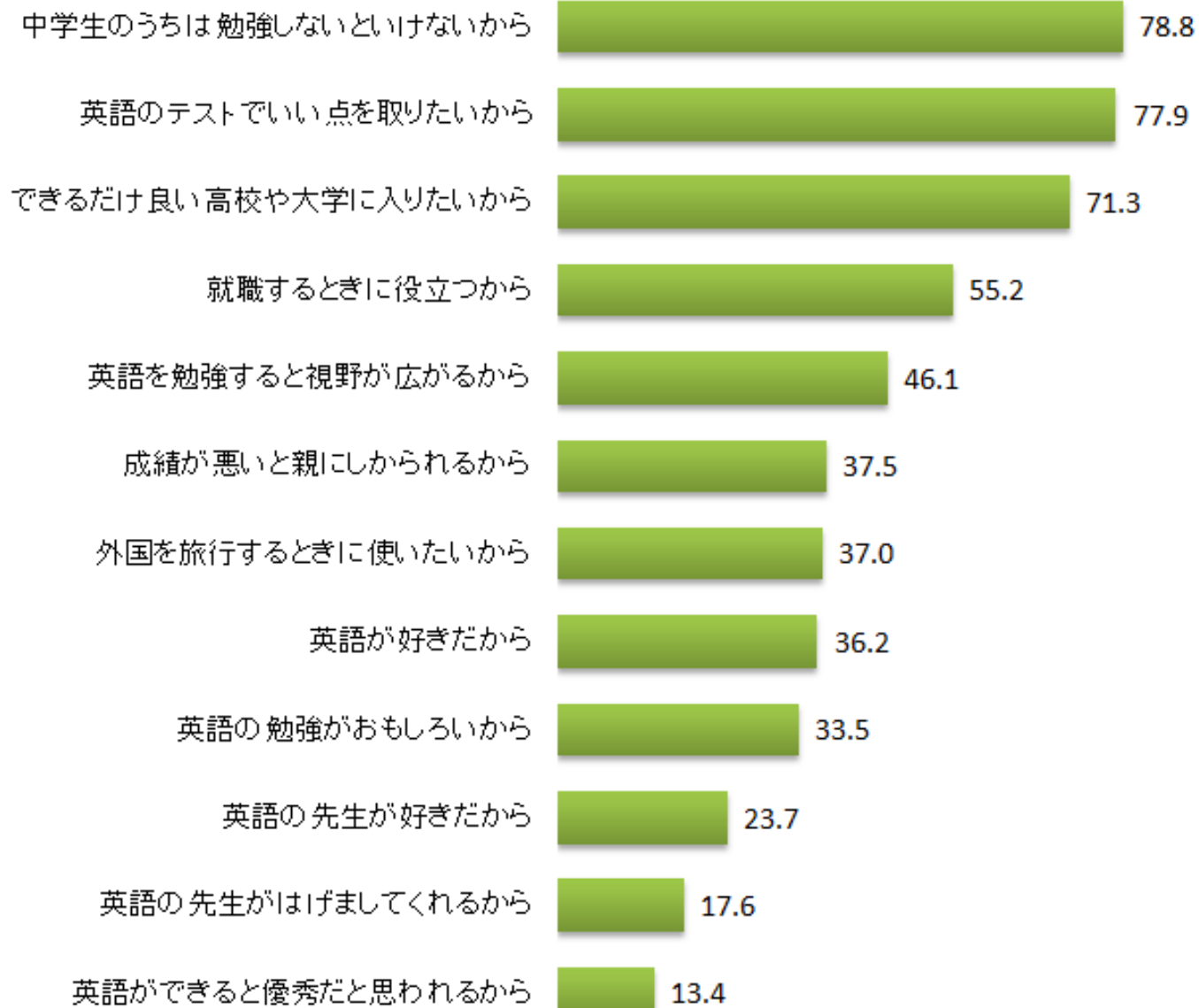


## (4) 英語学習の動機づけ①

Q: 英語を勉強しているのは、どうしてですか。

(n=2,967)

「とてもあてはまる」+「まああてはまる」の%



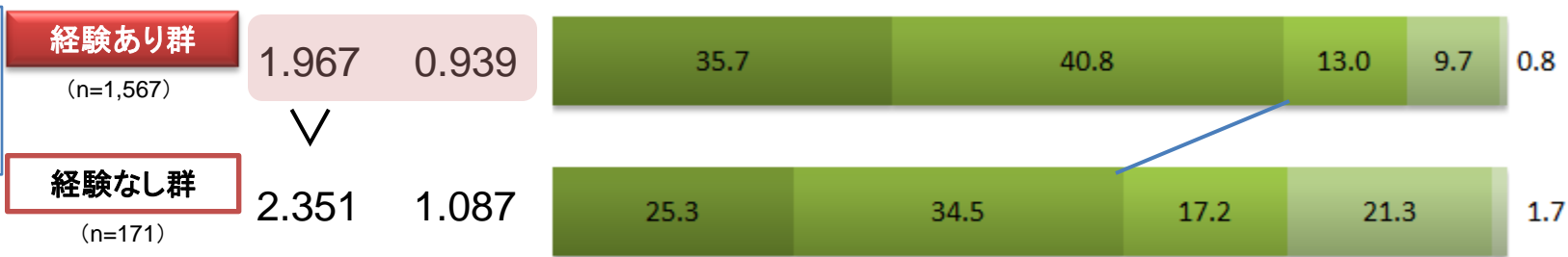
# (4) 英語学習の動機づけ②

Q: 英語を勉強しているのは、どうしてですか。

英語が好きだから



英語のテストでいい点を取りたいから



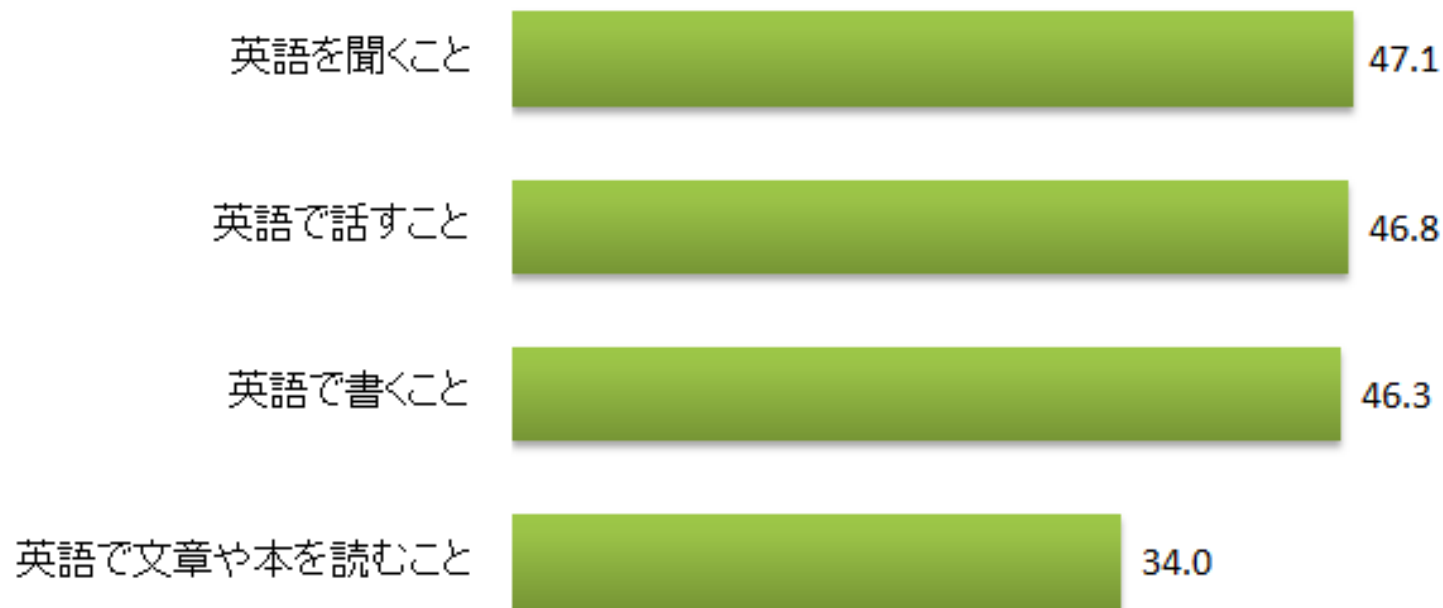
英語を勉強すると視野が広がるから



## (5) 英語の好きな活動①

Q: 次のようなことは好きですか。 (n=2,967)

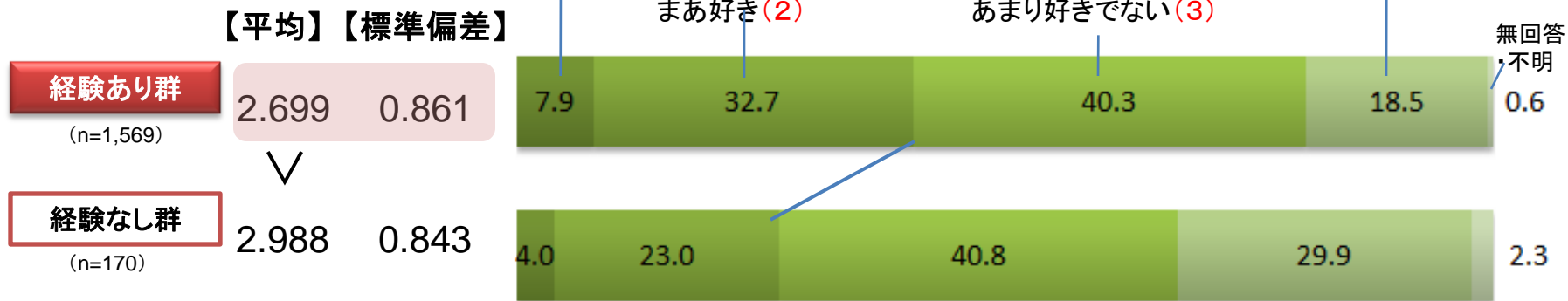
「とても好き」+「まあ好き」の%



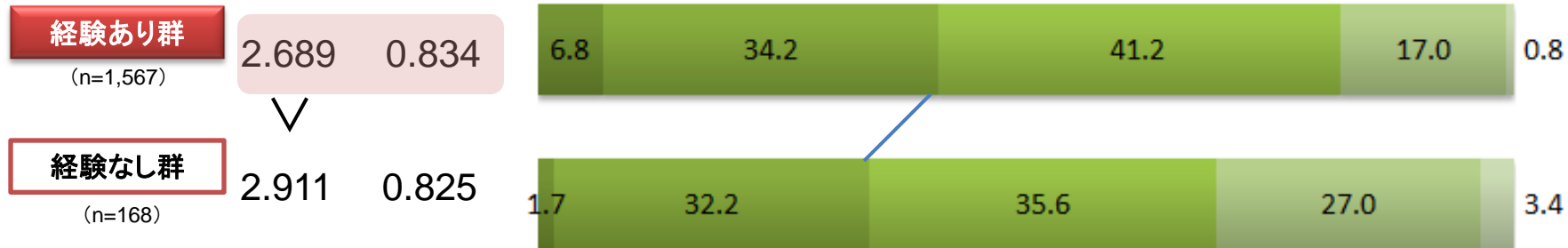
# (5) 英語の好きな活動②

Q: 次のようなことは好きですか。 (n=2,967)

## 英語で話すこと



## 英語で聞くこと



英語で話すこと  $t(209.103) = -4.240, p = .00003$

# (5) 英語の好きな活動②

Q: 次のようなことは好きですか。 (n=2,967)

## 英語で文章や本を読むこと

【平均】 【標準偏差】

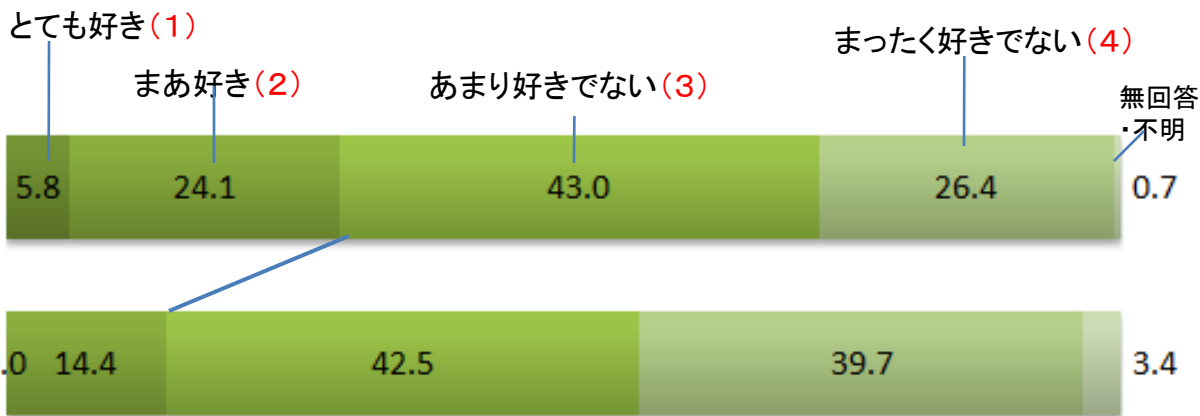
経験あり群  
(n=1,568)

2.906 0.857



経験なし群  
(n=168)

3.262 0.703



## 英語で書くこと

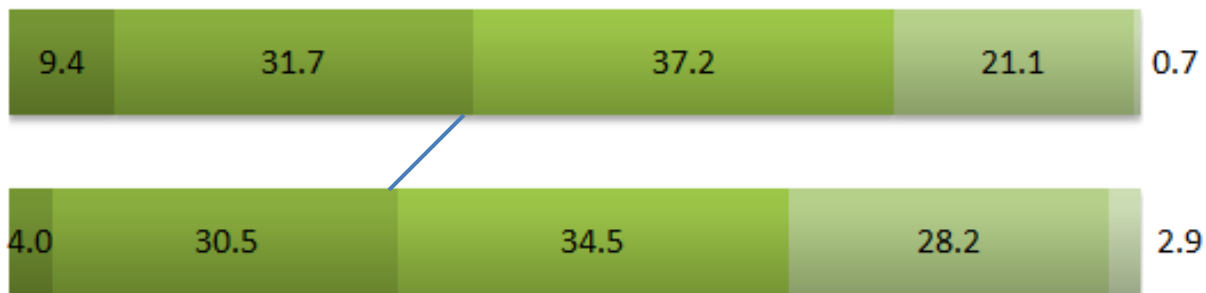
経験あり群  
(n=1,568)

2.705 0.907



経験なし群  
(n=169)

2.893 0.873



## 結果のまとめ

### ・公立小学校における英語活動の経験

- (1) 情意面(授業の理解度、英語の学習動機、好きな活動)に肯定的な影響を及ぼしていること
- (2) 学習に直接関わること(英語の得意・不得意、英語の成績、つまづきの要因)には顕著な影響を及ぼしていないこと

\* 英語の授業の理解度「あなたは、学校の英語の授業をどれくらい理解していますか」という perceived comprehension を聞いている。実際に理解しているかどうか、ではなく、生徒が理解していると感じているかどうか、に関する項目である。

## ・「現在の授業の理解度」への影響

### 解釈1

- ・経験なし群よりも、英語を聞くこと、英語を話すこと、英語を読むことに抵抗がない。
- ・聞くこと・話すことに焦点が置かれている授業(かも)
  - 積極的な授業への取り組み
  - 授業の理解度の高さ
  - (あるいは、理解しているという認知の高さ)

## ・「現在の授業の理解度」への影響

### 解釈2

- ・経験あり群は、高い内発的動機づけ、英語学習の価値の認識、具体的な目標の設定に特徴がある。
- 英語の学習行為
- 授業の理解度の高さ



- ・英語学習に直接関わることへの顕著な影響の無さ

## 解釈1

- ・有意水準を低く設定したために、有意な差が見られなかった。  
(第二種の過誤)

## → 効果量の検討。

- ・Cohen's  $d$  (Cohen, 1988)
- ・比較したい2つの平均値の差の絶対値を、全体の標準偏差で割った値。

得意・苦手	$d = .24$
成績	$d = .17$
- ・小さい効果量 .20、中程度の効果量 .50、大きい効果量 .80

- ・英語学習に直接関わることへの顕著な影響の無さ

## 解釈2

- ・小学校における英語活動
- ・「国際理解教育の一環」として行われている。
  - ・体験重視
  - ・英語力の向上を目的としていない

→ 中学校における成績にあまり顕著な影響を及ぼしていない。

## 引用文献

Cohen, J. (1988). *Statistical power analysis for the behavioral sciences* (2nd ed.). Hillsdale, NJ: Lawrence Erlbaum.

ご清聴ありがとうございました。